

ネ夕切れ小説家と
凄腕触手。



R18

ADULT ONLY



はあ…

んっ



「優しく這い回るそれらは
まるで別の生き物のようで、
触れられた部分に
甘い痺れのような快感を残した」

「彼女の舌が私の秘所をなぞり
彼女の指が、私の肢体を舐めまわす」



「まるで腕が
何本もあるようだ」と
吐息交じりに呟くと
彼女は眼元で笑った」

「服の下から聞こえる
くぐもった水音は、
彼女の動きに合わせて
粘り気を増していく」

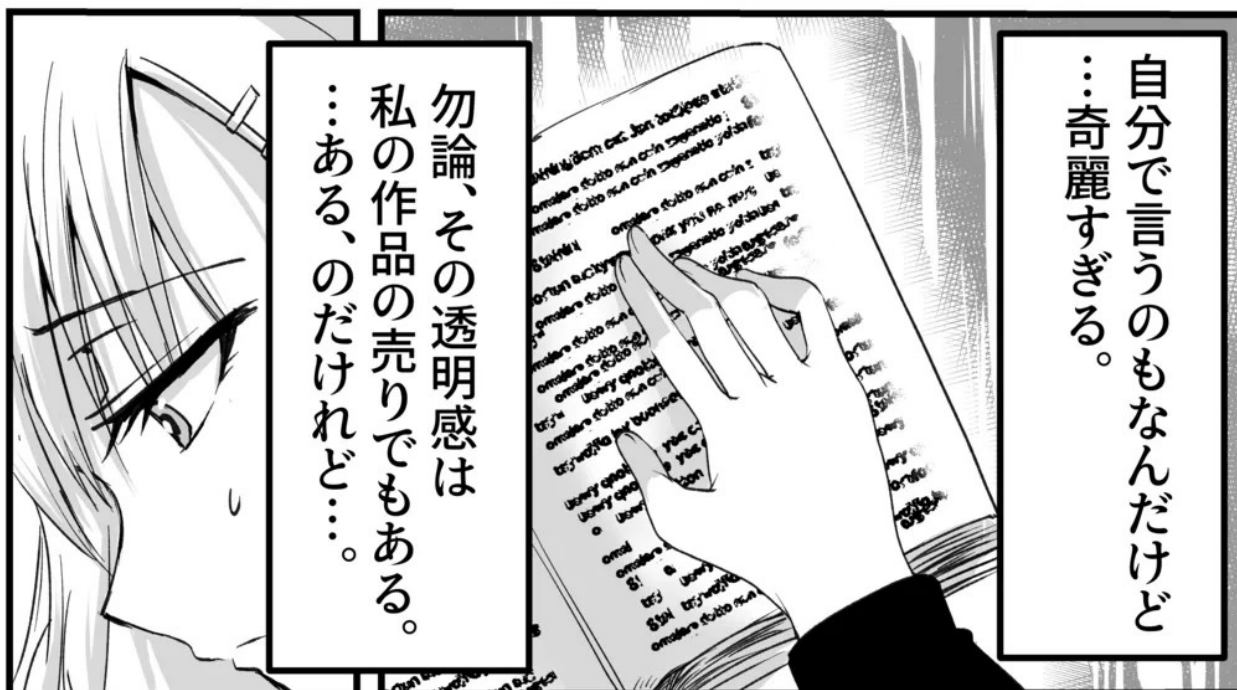


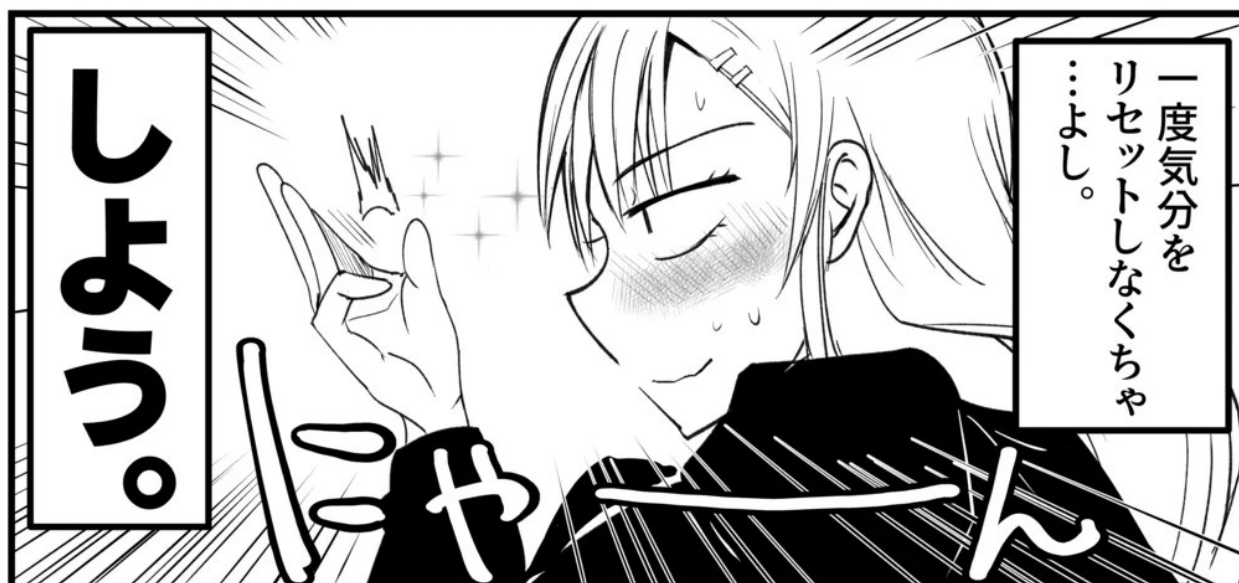
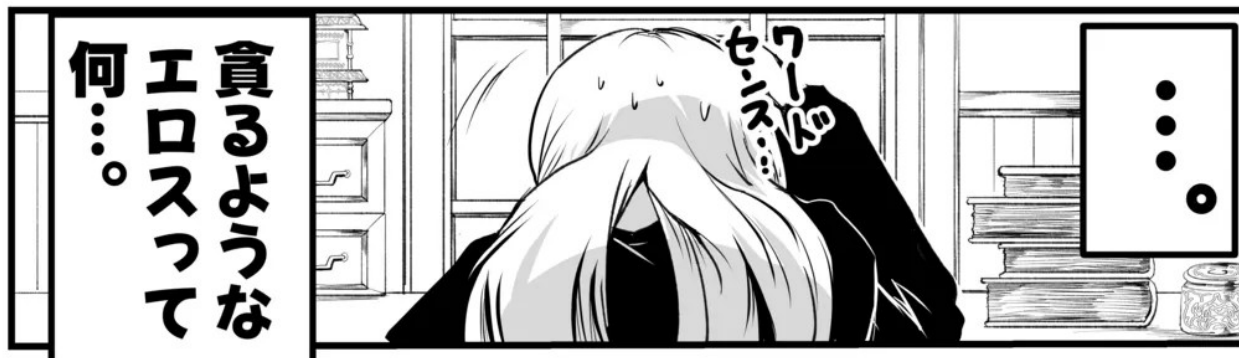














で、結論から言いますと
凄かったです

何が？

さすが天才錬金術師を
自称するだけの
事がありました

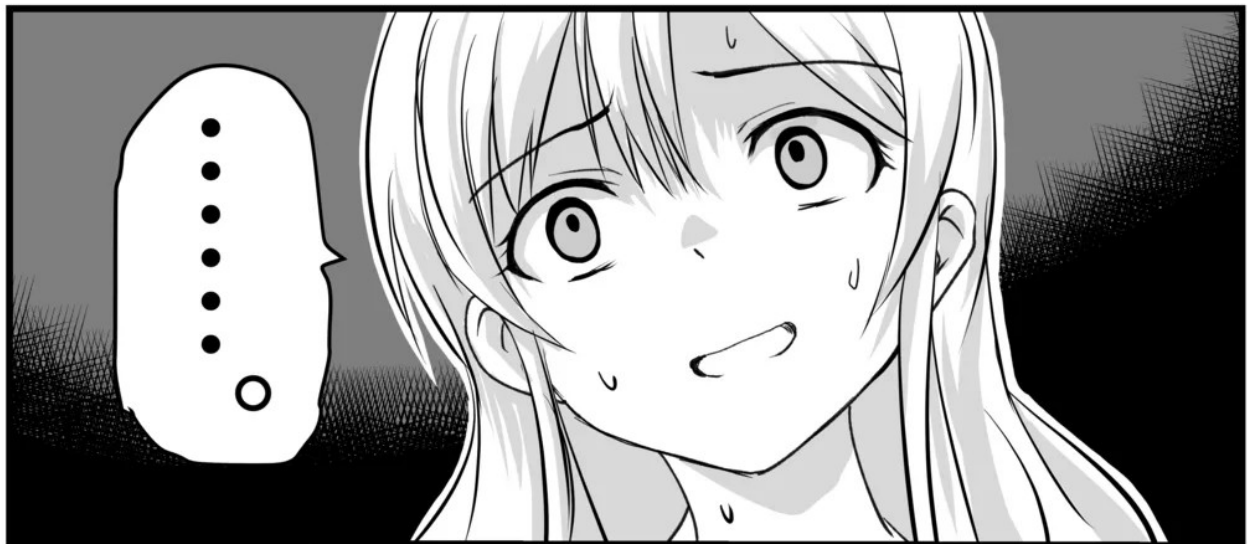
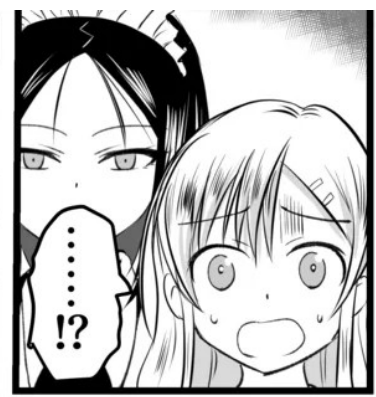
しかし、それはあくまで
私の感想ですので

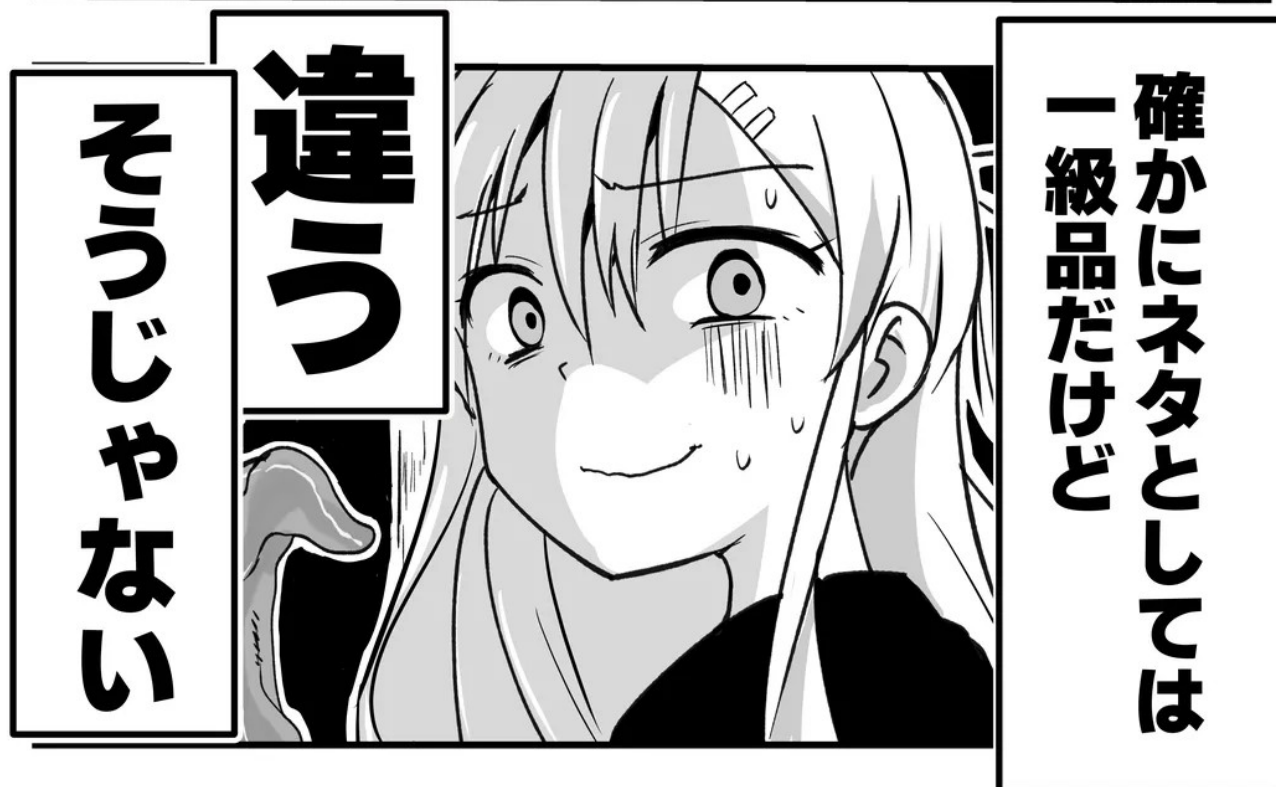
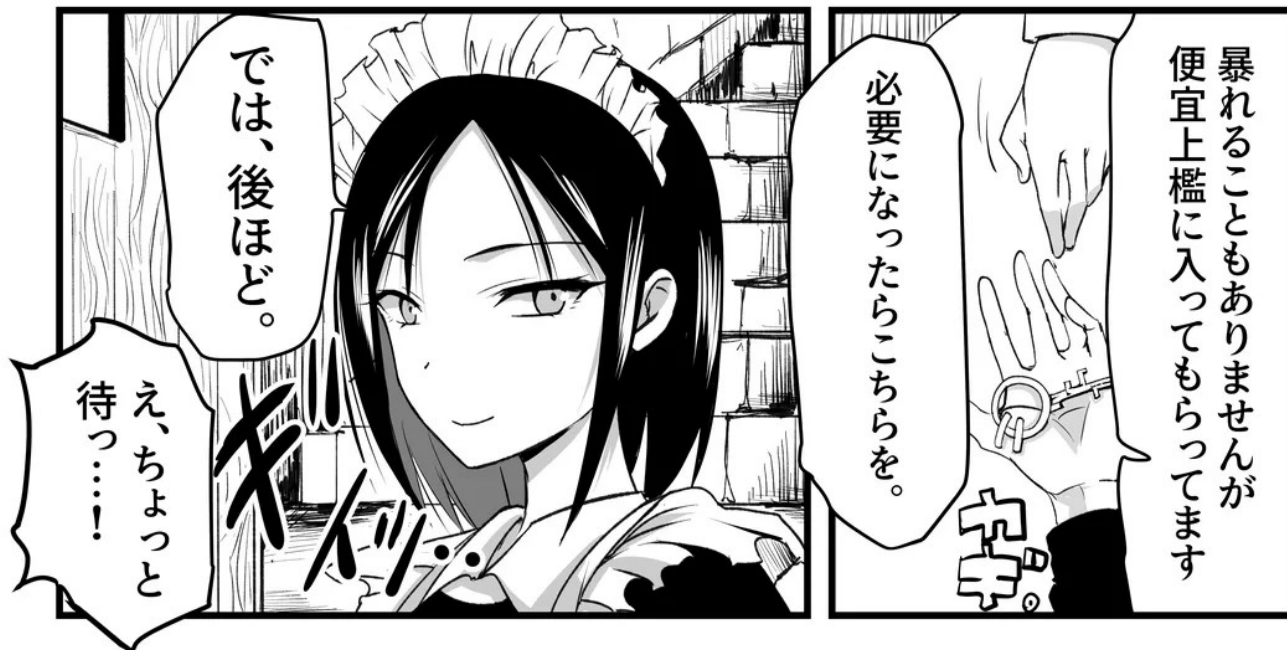
お嬢様ご自身で
どうされるかを
ご判断いただきたいのです

断っておきますと、
命に関わったり
危害を加えるといった事は
決してありません

……ただ

少々外見に
難はありますが…







そんなにお上手
なのかしら…。

うっわあ~~~~…
この子としたの？
エレナ…。



気にならないと
言ったら
ウソになるけど…



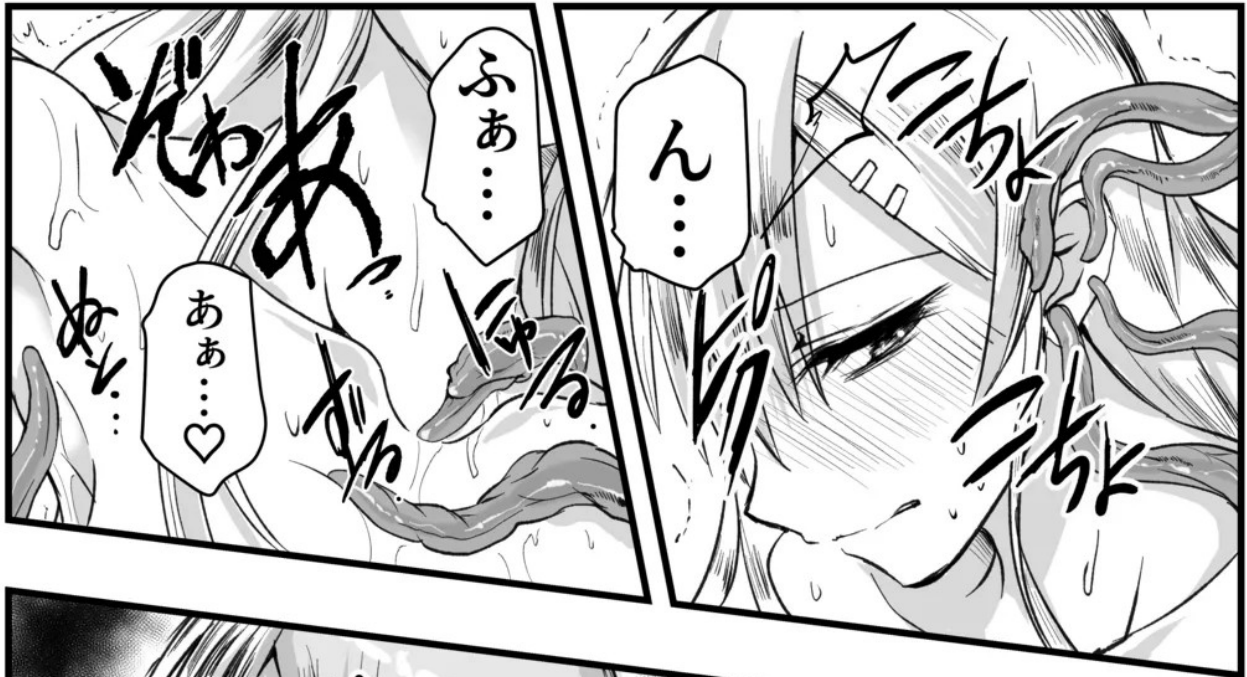
あの子が
認めるレベルの
技術…かあ

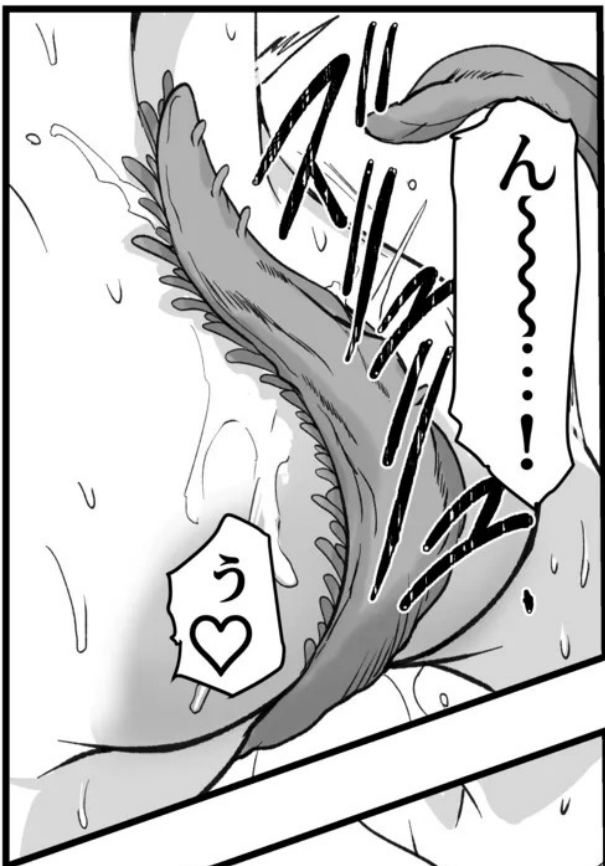


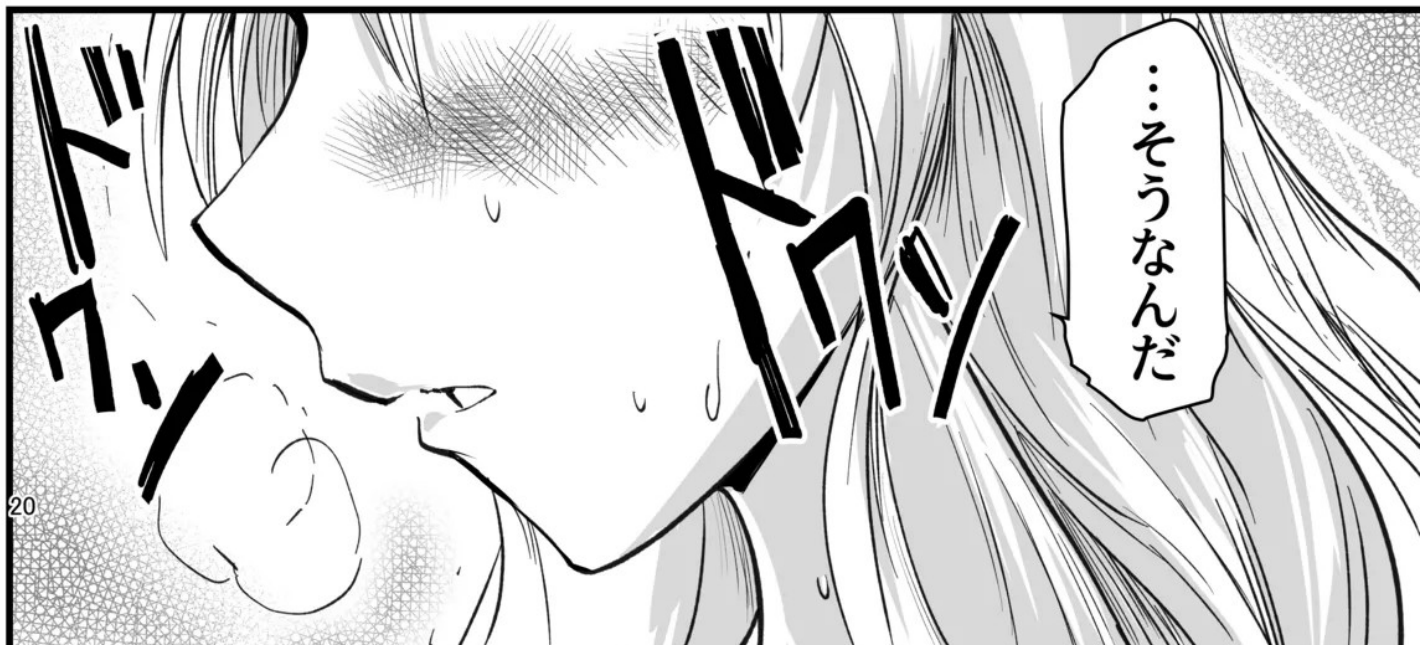
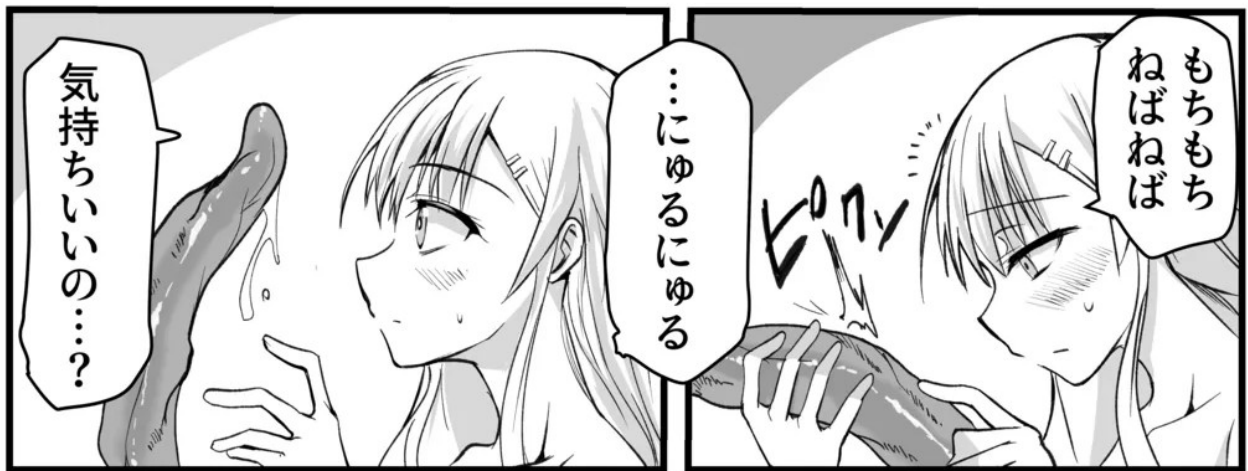
ちよつとだけ…
か、確認だけ
してみようか…！

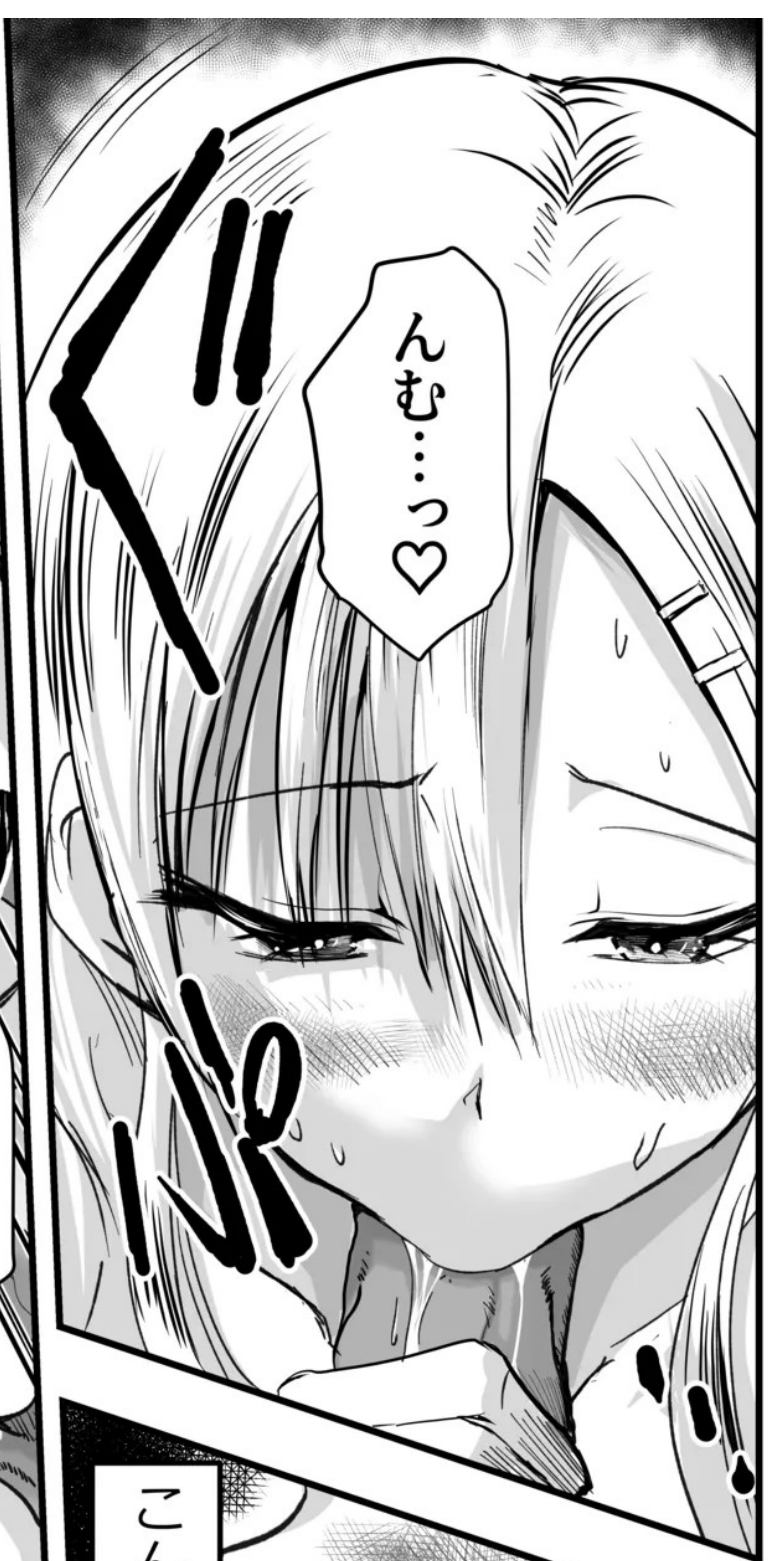


…そうよね
創作のためだし

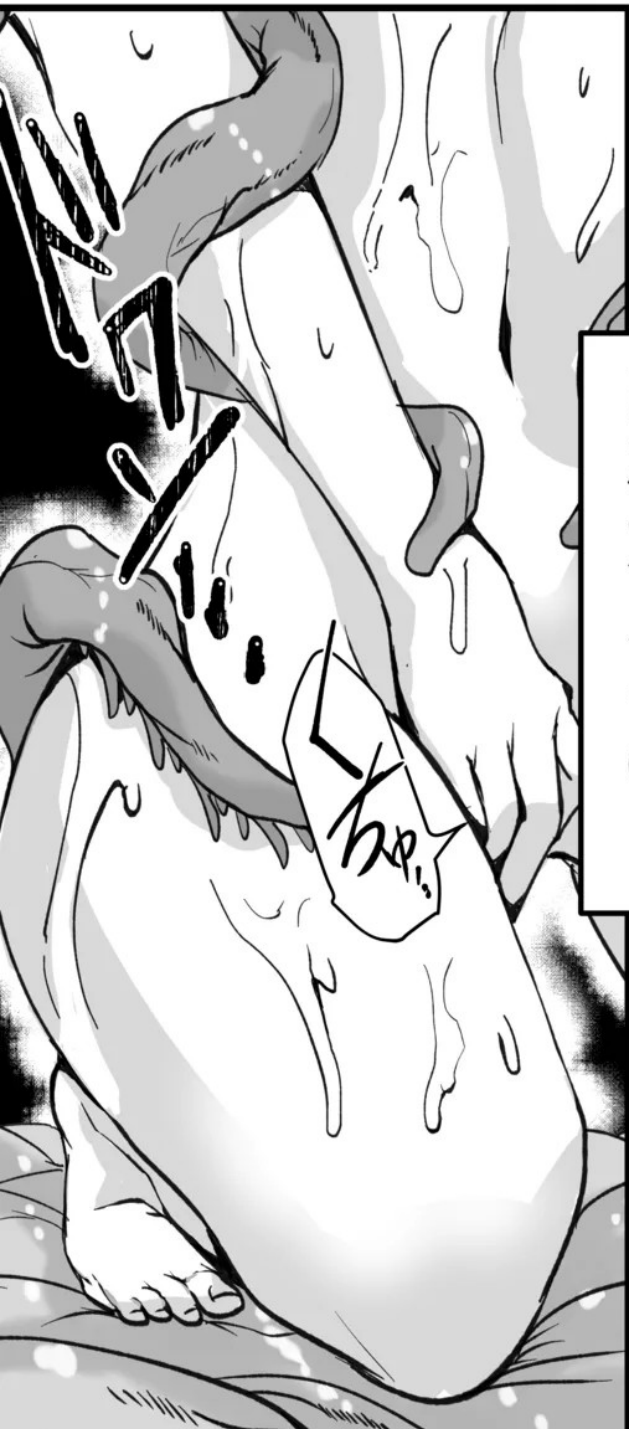








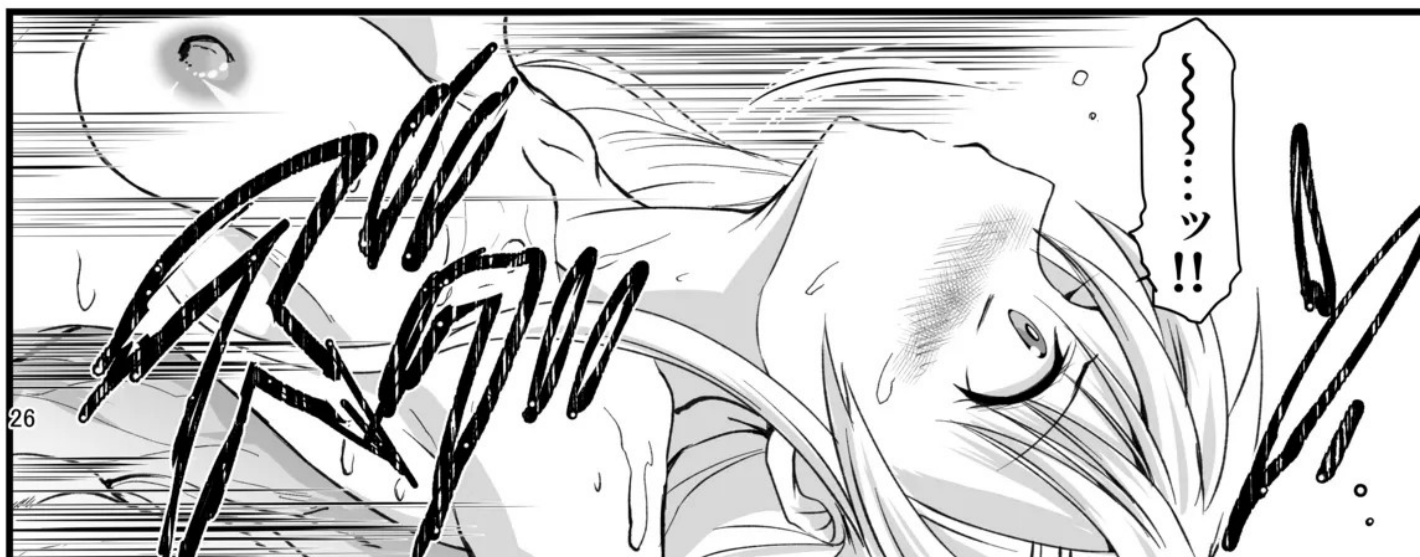




あれが入るの？



わあ、立派…





っは♡

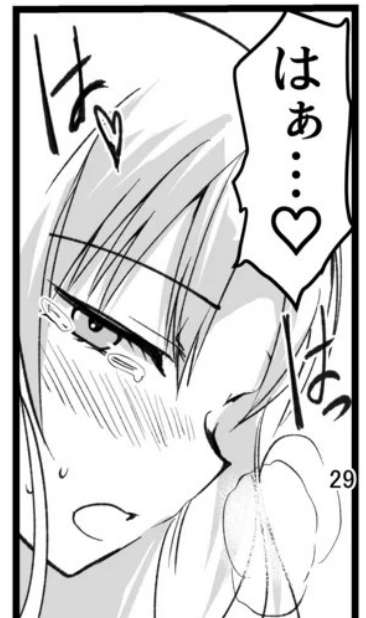
あ

あ

ん

ああ...っ♡





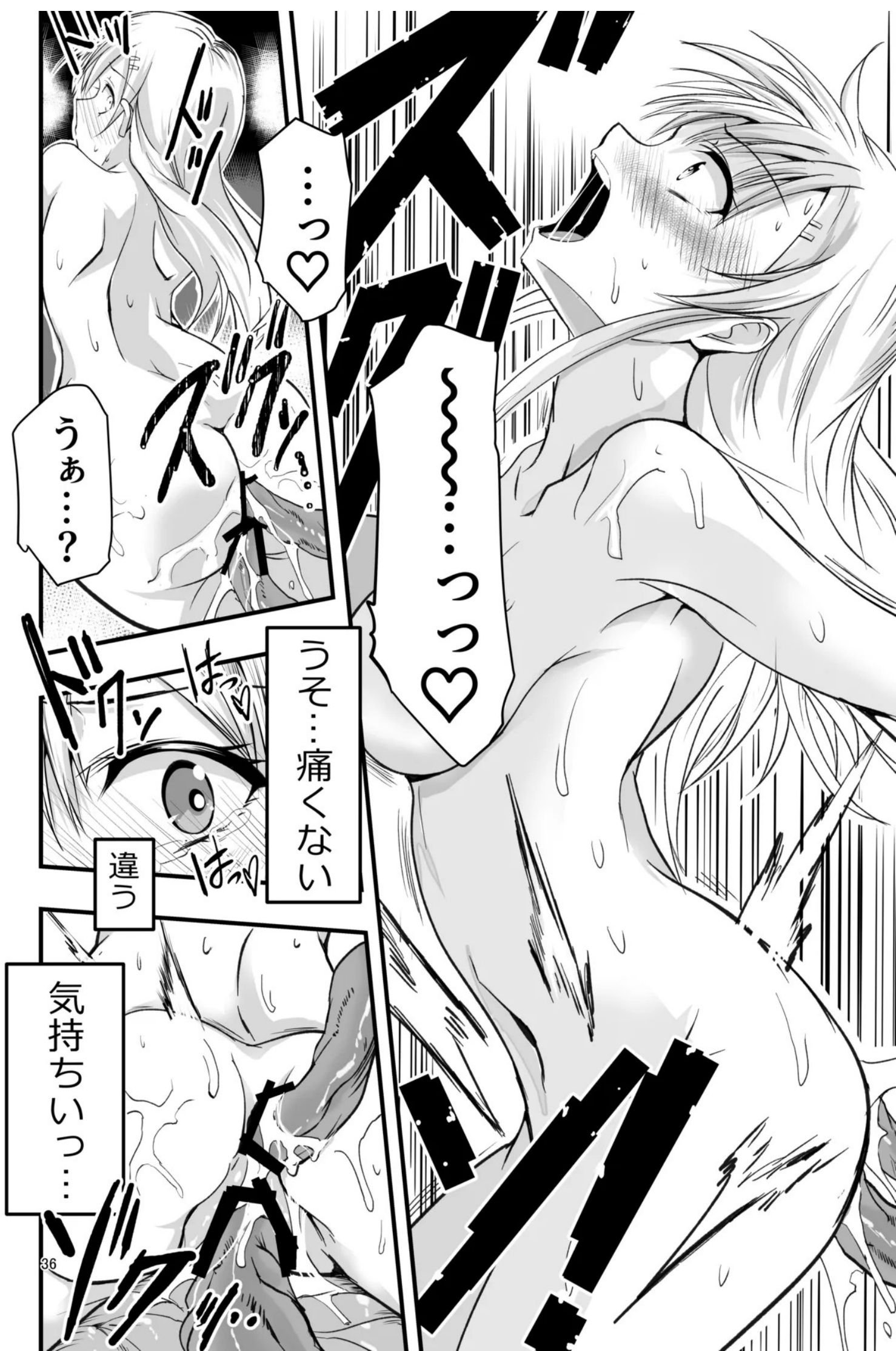


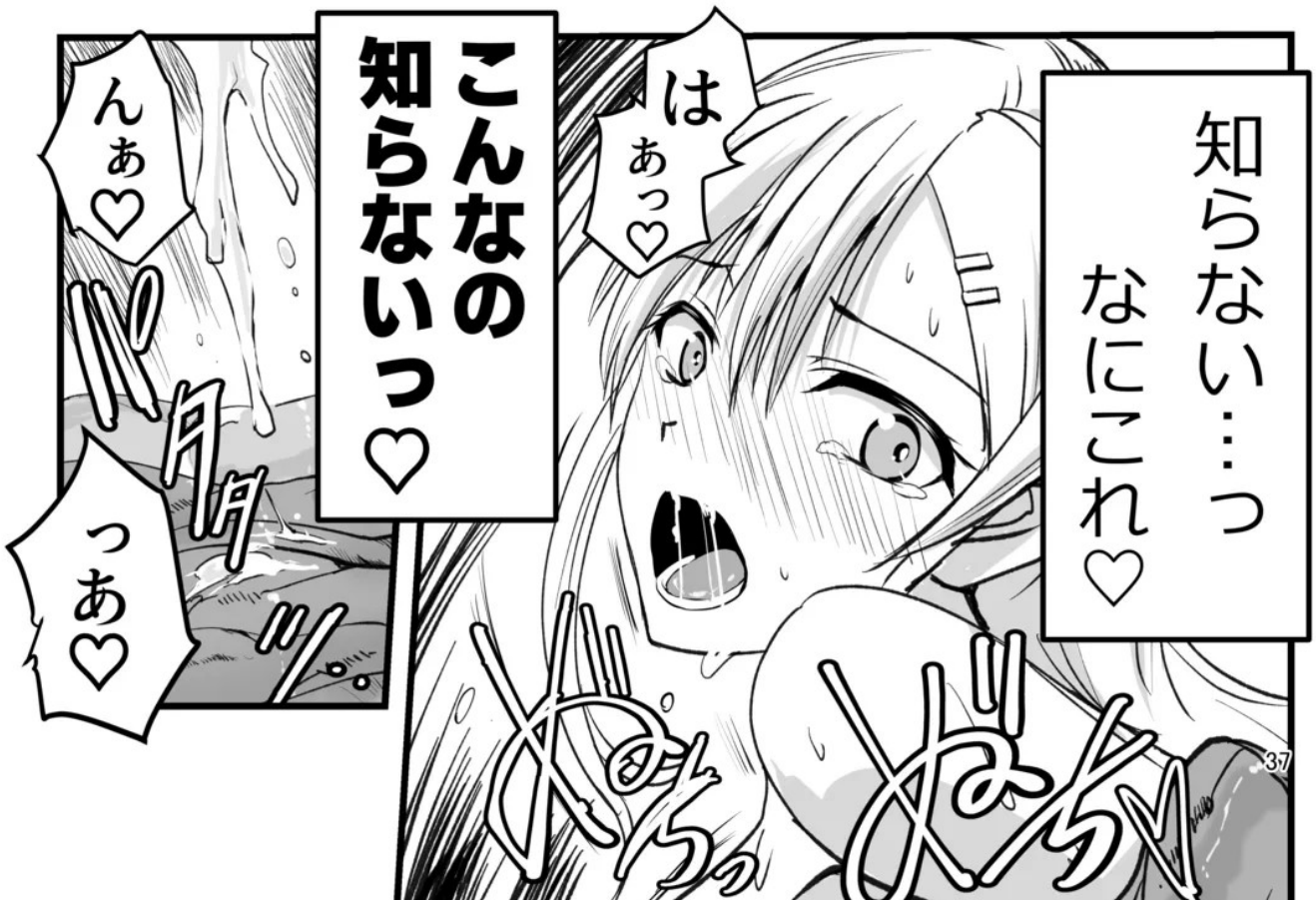
















っあ!!

あ♡

ああ……!♡



※この物語はフィクションです。
※18歳未満の方の閲覧は固く禁じます。
※無断転載、複写、複製、インターネット上への
アップロードを禁止します。

